東京都家庭薬工業協同組合会報

第9号

かていやく

昭和43年1月20日発行

題字・藤井得三郎氏

年頭所感

理事長　津村重舎

新年おめでとうございます。本年も相変らずよろしくお願いします。

明治百年を迎え、第二の黒船とさわがれる資本の自由化も本格的になる年でもあり、また、医療制度の改革に伴い薬業界も多難の年を迎えることになると思います。

厚生省の異例の処置は単なる厚生省のみの考えによるものではなく、健保の赤字という日本全体の問題から起ってきたものであり、それだけに根深く、従って長くこの問題と取り組まなければならないと思われます。この間に処して家庭薬はどう進むべきかが重要な課題となります。

家庭薬業界は今日まで長い歴史を持った業界であります。それだけ長く国民とともに生きてきたのであります。この事は健康保険が普及して完全な皆保険となる日までというような短命なものであってはならないと思います。国民が明治以来、否それ以前から家庭薬と共に生きて来たという事実は日常生活の根本的な問題なのであることを理解して、明日の国民の健康のための薬をつくる努力をなすべきであることはご承知の通りでありますが、とかく家庭薬は薬九層倍の語呂合せの如き言葉とともに内容も軽く考えられる傾向があります。このような誤った見方を一掃して、本当に日常生活における家庭薬の真価を認識して貰う必要があり、そのためにはわれわれは、一丸となって家庭薬のPRに努めなければならないと思います。

救心製薬社長　・　堀泰助氏

この家庭薬の制度は他の国には見られない良い制度であります。旧幕府の免許御薬が代表的その例でありましょう。明治百年の教育の成果は幕府時代の寺子屋制度にあるとある学者の報告にありましたが、日本の薬の進歩も民間の薬の正しい使用法がその下地になっているのも見のがせない事ではないでしょうか。この自覚のもとに今まで以上に、古き革袋に盛る新しい酒の不断の研究、PR等あらゆる面における、組合員皆さん方の努力が望まれる今日であります。新年にあたり、心を新たにして今年も大いにご活躍されることを望んでいる次第であります。

善意の顔

玉置　石松子

老境を佳境とはせむ事務始
仲見世ゆく顔みな善意初詣
去年今年航跡黙くメタン吐く

広告一言

太田　昭

広告とは「広く世間に知らせること」であり「企業が販売を促進し利益を上げるために媒体を通じて商品またはサービスを広く大衆に知らせる方法」である。すなわち広告には大衆の生活水準向上に役立つ報知的機能と、社会経済の発展をもたらす競争的機能との二面があるといえる。

報知的機能として最も効率的な広告媒体の一つとしてテレビを挙げる事が出来る。大衆薬の広告にテレビを利用する事は企業としての立場から極めて当然の事であり、広告表現技術上から五秒スポットによる品名剤種の表現、コマーシャルソングによる品名の連呼を行ったとしても、大衆に不快感を与えない限り広告の報知的要素を満足させる為の正当な手段であるといえよう。一面競争的機能は重要な要素である。

広告量に広告表現技術を乗じたものが競争的機能のエネルギーとなって現われてくる。自由経済においてこの競争のエネルギーが企業の発展の推進力となった例は今までに多く見られて来た。大衆薬の広告が他の業種の広告と比較してこのエネルギーに欠ける事は「適正広告基準」「自粛要綱」の制約によるほか、薬の安全性対策による影響が大きい。しかし安全性の面については広告以前の問題があり、すなわち一部の大企業メーカーにおいてマーケッティングに立脚しないマスプロ方式をとる結果、販売面に安全性の配慮を欠くこと、大衆薬の認識の貧困が需要者の軽視的風潮を強めていること、使用に際し能書に忠実である習慣に欠ける点等、われわれ業界としてもPRの必要を強く感じる次第である。最近安全性対策が安全度の高い実績をもつ大衆薬に対し必要以上に振り向けられ、広告以前の問題さえも広告面にしわ寄せとなって現われている状態は極めて不可解といわねばならない。この広告競争機能の低下が企業の発展をとどめ、ひいては自由経済存立を否定する結果となるといっても過言であるまい。

今回医薬分業の大前提として医療用医薬品とその他の医薬品とに区分された事は、家庭薬の性格を、大衆の生活に直結する商品として強く打ち出す時が来た事を示すものである。製品と広告の向上に対するたゆまぬ努力が家庭薬の繁栄を永久にもたらすであろう。

（太田胃散・社長）

業界人としての私

（その七）

大木　卓

一般メーカーとの商取引は円満順調裡に行なわれたのであるが、思いもよらない事態が生じたのであった。

それは他でもない前記仁丹本舗の森下博氏との間柄に起った事故である。一銀行取引を主義としていられた十五銀行が突然休業した事からの手形のいきさつであったが、これも森下氏と大木との協力で幸にして事なきを得たが、今から考えても容易ならない事柄であったのである。昭和二年の出来事で、大正十二年の関東大震災で全都が烏有に帰してから間もない時だったので、この時ほど当惑した事はなく、全くぞっとするような不慮の椿事だったのである。

当時は父良輔がもちろん一切の采配を振っていて社長、私は父の命令に従って行動をする副社長であった。今なら新幹線を利用するので何でもない事かも知れないが、当時は東京大阪間は約十二時間、昼間の汽車で発って夜行で帰る。当方で相談をした結果を私が持って森下薬房へうかがう先方では仁丹翁森下博氏が幹部諸公を集めて待っていられる。その多勢の方々の前で大事な相談がなされる。私は二十六才の頃、森下翁はおいくつだったか、多分七十六才位であられたと思う。またそのように見えた。お爺さんに孫といった調子で歯が立たない、いろいろな交渉もあったわけだが、翁は大阪弁で「ええかな、ええかな」と押して来られる。こちらは「ハイ」と返事してしまえば、こちらが困る事柄もあった筈。「よく判りません」と申した事もあるが、そこで明答は出来ないから、「帰りまして、よく相談を

して参ります」とて夜行列車で帰京翌朝帰り着くと、当方一同、また首を揃えて待っている。詳細報告をしてまたまた協議、その結果を受けとって大阪へ。こんな事を往復すること四回、即ち四日四晩遂には西へ走っているのか東へ走っているのか、さっぱり判らなくなってしまった。

疲労困憊の極、精神も肉体も使い果して、よい考えの浮かぶ筈はない。

能う限りの脳味噌をしぼって往復をした始末だった。

当時は若かったからこのお使いに堪えたのだと思うが、自分にとっては尊い体験を経たものと今でも忘れ得ぬ事件であった。

当時の森下博営業所の幹部の方々には神沢正氏、岩橋美蔵氏、竹内英蔵氏等がいられたが、前記会議の場合などは揃って各自に手帳を持って立会われ、私との応答を逐一記録されたものである。これは森下氏の厳格なしつけとでも申すものであったであろう。皆さんが私よりずっと年長者の前に青年の私は一人ぼっちで心細い限りでもあった。よくもあれだけに働けたと自分ながらに今感心している。

私が何でも過去の事は忘れてしまう男であり、むしろその方針？であると書いたが――その私が当時の幹部の皆さんの名前やらその時の光景を今でも忘れぬところを見てもいかに大きな事件であったかを知る事が出来よう。

幸にして今では単なる思い出として過ぎ去ったので、両家にとって幸であったが、世の中には思いもよらぬ事も起るものである。（つづく）

（大不製薬・会長）

薬と共に四拾有余年（その三）

松田　金之助

街中に流れていた不穏の空気も日が経つと共に段々と鎮まり、最も悲惨な本所被服廠跡また浅草の瓢箪池深川の木場の堀割等も応援に馳けつけた千葉、甲府の部隊に依って取り片づけられ、私共近衛歩兵隊は追々本来の姿に戻り、皇居の守備にまた近づく秋季大演習に備えて営々と励むのでした。

市内の焼跡にはバラックが建ち始め、槌の音も高らかに復興の意気に燃え、夜になるとソロソロ肌寒さを感じる晩秋の闇に点々と洩れる灯りにやっと東京を取り戻したように思え、何時か東京を愛してる自分に気付くのでした。

その年終り恒例の志願兵の入隊がありました。大野勇、秦千秋、千葉この三氏がわが隊に入られ、まず驚いた事は名前の通り大きい大野志願兵でした。

バンドが一本で間に合わず二本つないでやっとという巨人でした。優しい暖かい人柄は日曜の外出に森永に勤務されていたのでお土産にチョコレートを兵隊に分けられるのでした。岐阜の山奥で菓子といえば饅頭しか知らない私は茶色のほろ苦い菓子にペッペッと唾を袖口で拭くばかりでした。

当時の大野志願兵が現在は大森永を背負って立たれる現森永乳業株式会社社長大野勇氏で、短い御縁でしたが、後年再び御縁が繋がり、卸問屋マル金商店時代には長い事御世話になり嬉しい時苦しい時にどんなにか心の支えになったか判りません。たまに銀髪になられた元志願兵殿と頭の禿げた元上等兵の間にはお逢するたびになつかしい軍隊時代の空気が流れます。

最近激務に寸暇のないと承わっておりますが大野社長の健在を心から祈ってやみません。月日は何時か流れいよいよ待望の満期除隊も目前に迫りました。

何時の間にか東京が忘れられなくなった私は、何が何でも東京に残ろう、そして東京で一本立ちになろうと決心をすると最近まで成毛ビルに事務所を設けておられた弁理士松田雅弘先生の父君で、私には遠縁に当たる松田国太郎先生の津田の事務所に相談に訪れました。私の願いを聞き幸い同郷の人で玉置文治郎という面白い人物が薬問屋を経営してい

新春色紙展

新しい年を祝って七氏からそれぞれお人柄を偲ばせる色紙をお寄せ戴きましたので、ご披露いたします。

藤井得三郎氏　竜角散会長

津村重舎氏　津村順天堂社長

内藤豊次氏　エーザイ会長

千葉三郎次氏　千葉実母散社長

友田銈三郎氏　友田製薬会長

堀　泰助氏　救心製薬社長

川原庸子氏　三恵製薬社長

る。天衣無縫とはこのような人をいうのではないかと思う。早速紹介しようと書生をつけて玉置さんへと私を送り出されるのでした。

お逢いすれば同郷の気安さか、またうまが合うといいますか、是非働かせて下さい。何時でも来いと話が進み、年内に勤務する約束で早速帰郷、両親をはじめ知人一同に除隊のあいさつを交わした後、再度上京の準備にかかるのでした。

全財産といえ柳行李に着物二、三枚入れ、青雲の意気に燃え私は十二月八日夕刻日本橋の玉置文治郎商店に薬業界における新兵の入隊にもたとえられる第一歩を踏み入れたのでした。

年ばかり取った真っ黒な顔の新米小僧は何が何でもやり抜くぞと、その夜、床の中でわれとわが胸をたたき言いきかせるのでした。

（東海貿易・社長）

さるほどに

玉置　石松子

ことしの干支は戊申とあって、猿が話の種にされます。猿に縁のある言葉をさがしますと、どうも猿に同情したくなるのが多いようです。

猿知恵、猿真似、猿面、猿の尻笑い、猿がしこい、はまだしも、猿股猿ぐつわ、などにいたっては、猿にとって不愉快にちがいありません。

まして、湯女や岡っ引の隠語にまでされては、ますます顔を赤くして怒ることでしょう。だいたい、人間がむやみと猿を馬鹿にしたがるのは、猿が高等動物であるため、自分たちに近いので、同類が反撥する原理でしょうか。

手もとの歳時記をひらいてみますと、猿についての季語はたった一つです。鹿の季語が六つもあるのに、猿が俳人に冷遇されるのは不公平のようです。〈猿酒〉というのは秋の季語で、猿が樹木の洞穴や、岩の窪みなどに貯えておいた木の実を猿が忘れてしまい、雨露のために自然に発酵して甘美になるということです。たまたま、通りかかった猟師や木樵などが見つけて盗み飲むのだそうです。もちろん、猿のまぬけを笑ったこじつけでしょうが、ユーモラスで、童話的で楽しい話です。四谷にみさご鮨という寿司屋がありますが、このミサゴ鮨というのも、ミサゴという鳥の貯えた魚が酸味を帯びて美味となる、という云いつたえです。どちらも、もし味わえたならどんなにおいしいことでしょう。

植物の方ではサルノコシカケが一番有名です。サルノコシカケ科の菌につけた名前ですが、子供か木樵のつけたような楽しさがあります。

猿の発情期は十二月から二月へかけてで、この時期には顔も尻もホーデンも真っ赤になるといいます。五、六月が分娩期だそうで、「猿さかる」「猿の恋」を冬の季語に、「猿うまる」「猿の子」「子猿」を夏季に入れてはどうか、という提案を山本健吉氏がされています。人間どもの狭量によって、たぶん蹴られてしまうと私は思いますが。

猿の啼き声が哀れをそそって、唐詩に詠みこまれたり、王朝の歌人もよんでいますが、俳句の世界では、鹿は身近であっても、猿が敬遠されてきた歴史からみて、これ以上に文学としてとり入れられないでしょう。

世に三申という言葉があります。見ざる、云わざる、聞かざる、を私なりに解釈させて頂くと、他の悪を見ない、悪口を云わない、いやなことは黙殺する、という教えだと思います。要を得た結構な言葉だと思いますが、現代にはやや消極的のような気もします。ひろく見、大いに他の意見を聞き、自己の考えも陳べることが大切なことではないでしょうか。サル真似でない独創を企業に活かし、この年を乗りきりたいものです。

初時雨猿も小蓑をほしげなり　芭蕉

（玉置製薬・専務）

湯浅君のこと

渡辺　久吉

敬友湯浅君の追憶を書くようにと堀内君から御指命でこのページを与えられたことを深く感謝します。

故人のわが業界における幾多の功績は周知のことで、今更ら改めて申

し上げるまでもありません。頼まれれば否とは言えない性格の彼は、広く多方面に関係を持ち、また、彼の抱擁力、理解力と誠実は、常によくその責任をはたし、成果を挙げていました。一度その地位に就くと彼程の人物はなかなか得られないので、替りの人を思い出せないために次々と肩書が増すばかり、永遠の眠りにつくまでその責任を脱けられなかった訳であります。しかし、決して彼が好んで引き受けたことはなく、むしろ避けられるだけ逃げていた位であります。だいぶ古い話になりますが、彼が阿佐ヶ谷に居住していた頃土地の周囲の人達から無理に推されて杉並の区会議員になった時も確かすぐに議長にさせられ、そのためにかなり時間を費やされて困っていたことを思い出します。「君もとうとう苦（区）界に身を沈めたな」と冷やかしたら、全く君のいう通りだ。厄介なものを背負わされたよと、さすがにこぼしていました。四年を一期で絶対に止めるよと言っていましたが、いよいよその満期が近づくと取り巻き連中がもう一期をと頼んで止まないので、彼も閉口して、「おい！何とかならないか。毎日のように坐り込まれて参ったよ」と申しますので、それじゃ思い切って杉並の居住を替えた方がいい。それに場所も少し不便だし、僕の近くに来たらとすすめましたら、余程困ったとみえて引越すことになり、現在の新宿柏木の住居がそれであります。その時も百坪もあれば十分だと言うのを百坪じゃ後日足りなくなるからと無理に二百坪取らした訳ですが、僕も地所で利益を少しでも得ることは嫌やですから、初めは無償で譲る積りでしたが、どうしてもと承知しません。それで止むなくそれまでの僕の払った地代の総計だけを払って貰うことでようやく話しが纏まった程、彼は欲の少ない人でした。その後十数年、彼の健康が勝れなくなった一昨年まで、毎年六月十日を感謝の日として僕を上坐に据えて宴席を設けるという義理の固いところが彼にはありました。

目下病気入院中の堀正由君と三人は誰いうとなく東京家庭薬の三羽烏といわれる程の仲で、業界の会合はもちろん、私的な旅行も、あちこちと飲み歩くのも必ずといっていいくらい連らなっていたものです。堀君は彼より五つ下、僕は堀君より五つ下五つ違いの兄弟分で殊に堀君は公私共に彼には細大漏らさず相談し、ごく内輪のことまで打開けており、彼も親身になって心配してやっていました。僕が湯浅君の病床に見舞いに行くたびに、堀君の病状を心配して時折は見舞いに行ってやってくれと自分の病気よりも心配していました。まさか自分が先に逝くとは思ってもいなかったでしょう。堀君も同じくベッドの上で彼の容態を心配しておりますので、彼の逝去を知らせないことにしております。それを知ったら必ず堀君は力を落すに違いないと思いますので、この「かてい やく」誌は堀君には見せないよう是非ご注意願います。

故湯浅　厳氏

われわれ三人の他に戦後間もなく僕が紹介して坂本君が加わり、四人男になりました。そもそものなれそめは戦時中の売薬の企業整備と申しても、今の組合幹部の方々には余りピンと来ない方が多いと思いますが売薬法が抹消されて薬事法の改正で医薬品が一本になり、売薬業者はどうなるのかと全く危機に直面してお互いに自我を捨てて団結し、家庭薬という名称で別個に独立した全国一つの統制組合を結成してようやく抹消の難を脱することができた業界の戦国時代で、いわば戦友的な深い仲になったのが始まりの訳でして、全く感慨深いものがあります。

昔語りを申せば懐かしいことばかり限りがありませんのでこの辺で湯浅厳君の安らかな冥福を皆様と共に祈りましょう。

（三宝製薬・社長）

〈委員会から〉

総務委員会

昭和四十二年をかえりみますと、組合永年の懸案でありました新事務所の購入については充分夫々の角度

から検討の結果、現在の銀座東に立地条件その他について最上と思われます事務所を取得致しましたことは正副理事長始め理事、監事、評議員各組合員及び各委員会の惜みない御協力の賜で深く感銘するところであります。

次に例年以上に叙勲、藍綬褒章、厚生大臣表彰、国税庁長官表彰、東京都知事表彰及び褒章を組合員から多数受賞されましたことは、真に御本人の永年に亘る家庭薬業界のために活躍された功績によるもので、どうか今後とも御健康に御留意の上益々御発展されますことをお祈りすると共に、心から敬意を表する次第で総務委員会としても誠によろこびにたえません。

本年は昨年発表された医薬品製造承認に関する基本方針の実施に伴う問題、資本自由化問題、広告問題及びオトリ廉売問題等家庭薬業界として充分研究対策を迫られる多くの難問を抱え益々各委員会の業務は多忙なことと存じますので、各委員会とは充分なる連けいのもとにその活動を推進する所存でありますが故どうか宜敷しくお願い申上げる次第です。

（坂本藤四郎）

販売対策委員会

価格問題は不安定ながら一応小康を得ていると云えそうである。安売りも我々にとっては不満であるがやや慢性化して来て世間の目を引かなくなったのか、スーパー等のチラシに入る度数が減って来た様であり、一時の様に各地の小売商業組合から激しい非難も来ない様になった。

再販については公正取引委員会で検討を続けている様であるが表面一応静かである。ただ極端な安売りを取締ってほしいという我々の要求が多少理解されて来ているように思われるのは当然の事とはいえ御同慶に耐えない。今後も正しい主張は続けて行きたい。

右記の様な状況である上に委員諸君も御多忙なので十二月は委員会を休会しました。御諒承下さい。

（津村重孝）

広告委員会

十月十八日（木）厚生省と広告懇談会を開催した。厚生省側からは薬務局監視課岡課長外担当官五名、組合側からは正副理事長、総務委員長広告委員、事務局長外十名が出席。家庭薬の長い実績と実情に即した監視行政を要望。その他薬事の新体勢に際して、今後の医薬品広告のあり方について種々意見交換を行った。

十月二十六日（木）日本橋保健所講堂に於ける都庁主催の「医薬品広告講習会」の後、同所に於て、組合広告委員会主催の講演会を開催した。講師は花王石鹸PR部長山形弥之助氏。演題は「製品開発よりCMフイルム作成まで」同氏の長年にわたる貴重な広告経験をもとに、同社のCM作品を上映しながら、家庭薬の広告にそのまま生かせるCMフイルム企画制作上の要点を講演。大いに参考となる。

今回、全国家庭薬協議会の中に「全家協広告研究会」を設ける事となった。

最近医薬品広告の考え方に於て、関係当局と業界との間に若干開きを見るに到った為、相互の意見調整を行う目的を以て、今回研究会を設け一般学識経験者の家庭薬に対する忌憚のない意見を聴取した上、正しい広告表現について関係当局と意見交換を行い、もって大衆薬広告の向上を計る事とした。（太田）

厚生委員会

明けまして御目出度う御座居ます。当委員会昨年度は新に宇津委員の加入を得、春秋の懇親会と、恒例のゴルフ会六回、内グランドカップ取り切り戦、又最終回は豪雨中止等悲喜交々にて盛況裡に終了、又碁会も毎回熱戦をくり広げ霜月十八日第三回戦を以て一応終了致しました。又労務、弘報両委員会共催の《福利厚生のいろいろ》は誠に有意義なものとして特筆すべきと思います。以上御協力下さいました会員各位には心より感謝致す次第です。では本年も又、御協力の程御願い致します。

尚其の後のゴルフ会、碁会につき御報告致します。

(1) TKGC（ゴルフ会）

第2回　42年9月14日

於千葉カントリークラブ

梅郷コース

優勝　歌橋一典　1等山崎　寅

2等　堀　正己　3等秋山義郎

BB　飯島明正

第3回　42年11月30日

於横浜国際ゴルフクラブ

参会者十六名あってスタートしたが豪雨の為中止しました。

(2) 東京家庭薬碁会

第3回　42年11月18日
優勝　青木辰夫　3級4戦4勝
2等　中島禎夫　2級3勝1敗
3等　市川一雄　2段3勝1敗
4等　津村重孝　6級2勝2敗
（町田）

弘報委員会

当業界もいよいよきびしい環境にたたされ、業界人が二人寄ると〝薬価基準はどうなりますかネ〟〝再販契約はどうなるのやろ〟と眉毛を八の字にして明けくれた昨年でした。

本年は当組合としては特に再販法の推移に多大の関心を払わねばなりません。スーパーマーケットの進出が一段と激しくなり、家庭薬が廉売宣伝にもっとも効果のある商品として、医薬品本来の性格とはまったく反するような売られ方、買われ方をしているのを見ると、早く何とかしなければと思うのは私だけではないでしょう。

組合員全部が価格維持について話し合い、力を合せるべき時だと思います。

組合員が強く結びあう為に、この機関誌〝かていやく〟があるのですから《みんなの広場》として意見を発表し、交換するのにふさわしいものにしたいと考えてまいりましたがいまだにその実が上りません。

ご叱正いただくと共に組合発展のために〝かていやく〟を通じて一層意志の交流をはかるよう、ご協力をおねがいいたします。（堀内）

事務局だより

追補
昭和四十二年十月
国税庁長官表彰　藤井勝之助殿

十月二十三日伊香保千明仁泉亭で東京都家庭薬工業協同組合懇親会を開催した。当日は役員、各委員、組合員四十二名が参加して午後二時三十分から午後五時三十分まで同好の士による懇親囲碁大会、懇親麻雀大会を開催しました。優勝は囲碁大会は渡辺久吉氏、麻雀大会は中村源三氏でありました。引続き午後六時から懇親会に移り盛会裡に午後九時終会となりました。翌日朝食後これも同好の士による懇親ゴルフ大会が伊香保カントリークラブで盛大に開催されました。

十一月二十八日恒例の都庁を囲む薬事懇談会を午後六時から東中野日本閣で開催しました。当日来賓の東京都衛生局長、薬務部課長、各係長十八名と組合員四十五名が出席して極めて有意義な薬事に関する懇談を交えて午後九時盛会裡に散会致しました。

十二月一日東京薬業会館で、東京医薬品工業協会、東京医薬品卸協同組合、東京薬貿協会、東京都家庭薬工業協同組合の四団体共催による昭和四十二年度受彰者祝賀会を開催しました。組合関係受章者は十一名。組合員三十一名が出席盛会でありました。

十二月八日恒例の組合忘年会を兼ねて昭和四十二年度受章者祝賀会を開催致しました。午後四時から組合会議室で受章者十二名（かていやく第八号既報）に記念品を贈呈、引続いて祝賀忘年会パーテーを開催、午後八時盛会裡に散会致しました。

十二月十三日組合会議室で午後十二時三十分から衆議院議員亀山孝一参議院議員迫水久常両先生を招請して、組合幹部二十名と薬事全般に亘る懇談会を開催致しましたが、極めて有意義な催でありますので今後度々開催することに致しました。

訃報
イヂジク製薬株式会社社長湯浅巌氏は十一月十八日午後五時脳血栓により逝去されました。

社葬
葬儀は十一月二十五日午後一時より午後二時、
告別式は十一月二十五日午後二時より午後三時
築地本願寺で執行されました。

組合員変更通知
会社名　友田製薬株式会社
旧代表者　取締役社長　河口静雄殿
新代表者　取締役社長中西三樹夫殿
各薬業界だより

東京家庭薬軟式野球連盟主催秋季野球大会は神宮外苑グランドで十一月三日から十二月三日まで二十一チームが参加して熱戦を展開し、左記の戦績をもって盛会裡に終了しました。
優勝　養命酒製造株式会社
二位　株式会社鈴木日本堂
三位　救心製薬株式会社
三位　太平化学製品株式会社

東京都家庭薬工業協同組合会報
かていやく 第九号
昭和四十三年一月二十日発行
編集・印刷・発行
東京都家庭薬工業協同組合
東京都中央区銀座東八丁目十五番地二
電話（五四三）一七八六